



編集委員長2年目を迎えて

澤田 廉士*

このたび、引き続き編集委員長という大役を続投することになりました。とは言っても正直な話、まだ、よく編集委員としての業務について把握しきれていないことが多々あります。昨年の巻頭言では、小生がMEMSに携わっていることもあり、MEMSパッケージング技術とデバイスのファブリケーション技術の連携の必要性について語ったと思います。しかし、連携は研究開発だけでなく、編集業務の運営にとっても重要なのが実感です。誰がなっても編集業務に短時間に慣れ遂行できるようなマニュアル作成も必要と思われます。講演大会、国際会議などの講演内容の論文や記事作成など各委員会と連携してスムーズに進められる体制づくりが急務です。改善すべきところがあり過ぎという感じです。

小生、4年前に企業を退職し今は大学に所属し大半を学生と接しています。非常に気になるのは、学生がなんでこんなに疲れているんだろうということです。猛烈ビジネスマンのようにバリバリ仕事をしているわけでもないし、研究、スポーツ、勉強にそれほど打ち込んでいるわけでもないのに。決して学生だけでなく、教員やビジネスマンについても当てはまるのではないかと……と思うのです。学生であろうとビジネスマンであろうと何かよくわからないが、忙しく疲れきっている人が多い。学会の編集委員会においても、委員が忙し過ぎて構成メンバーが集まらない、委員もなかなか一堂に集まるのが難しくなっているなどの問題が起きています。さらにいろいろな委員会との連携が大事ということで、連携を進めようとしているわけですから、忙しさに（少なくとも当初は）拍車がかかるのは必至です。こういう状況でありますので、構成メンバーの増員などの対策も必要となってきました。

MEMS製品を例にしても、開発者はパッケージで困っているのも事実ですし、また電子機器でパッケージに何らかの形で関係している開発者は多くおります。JIEPの存在価値は大で、その発展性も大であることは間違いありません。学会が多少なり、開発者らが抱えている課題を解決する策を与える場になることができれば……と思います。編集委員としては、投稿や査読システムのWeb化、大会委員、技術委員との連携などいろいろな課題を解決することで、開発者らが抱えている課題が解決しやすくなるような場の提供が誌面を通じてできれば本望です。

今年で、JIEP学会は10周年を迎えました。これをいい機会にしてさらなる充実した誌面になるように頑張っていきたいと思います。